

作

三年
 画数 7
 筆順 ノ イ ヰ 竹 作
 オン サク・サ
 クン つくり

成り立ち



↓
 人 ↓ 目 ↓ 竹 ↓ 作 ↓ 作

「ざいもく(木)」にきれめを入れたかたちをあらわした「作」と、人のかたちをあらわした「イ」とを組み合わせて作った字です。

「人」が、ざいもくに「きれめ」を入れて、きぐをつくる「こと」をあらわした字です。

「ものを つくる」「こと。また、「しごとをする」といういみにつかう字です。

「つくる」といういみのときに「サク」とよみ、「しごとをする」といういみのときに「サ」とよむことがおおいようです。

使い方

▽きょう、工作のじかに、ねん土でうまを作りました。
 ▽おかさんは、だいどころで、おりょうりを作っています。わたしも、おりょうりがすきで、てつだいをします。とくに、キーキやクッキーを作るのがすきです。

熟語例

▽作品(作ったもの。とくに、音楽や文芸、手芸など、芸術にかんけいして作られたものをいいます。「モーツアルトの作品は、すばらしい」などといいます。)
 ▽作文(文しようを作ること。また、その作った文しようのこと。「ぼくは、作文がちよつとにがてです」などといいます。)

▽作業(しごとをすること。「田はたでは、はやくも農作業がはじめられた」などといいます。)

▽作用(ほかのものにえいきょうをあたえること。また、そういはたらき。「このくすりは、作用がつよいので、気をつけてとりあつかうように」など)

算

三年
 画数 14
 筆順 竹 算
 オン サン

成り立ち



↓
 算 ↓ 算 ↓ 算 ↓ 算

「算」は、「道具」の「具」という字。「竹でつくった道具」といういみの字です。

むかし、計算するときに「竹のぼう」をつかいました。が、その「竹のぼう」を「算」、または「算木」といいました。「算木(かずとり、ともいいました)」のことです。

計算するときにつかいましたので、「計算する」か「ぞえる」といういみにもつかいます。

また、「はかりごと」のいみにつかわれることがあります。

使い方

▽わたしは小さいときに、算盤をおそわったので、計算がとくいです。今では暗算もとくいです。

▽計算するときはアラビア数字をつかうので、これを算用数字ともいいます。

熟語例

▽算盤(計算するのにつかうどうぐの名前です。玉を上げ下げして数をあらわし、計算をします。)

▽計算(もんだいにおうじて、数をたしたりひいたりして数のあたひを出すこと。計算は「数をかぞえる」といういみのことばです。)

▽暗算(どうぐをつかわずに、頭の中で計算すること。)

▽算用(計算するのに用いる、といういみのことばです。「計算する」といういみにもつかいます。)

▽算段(よい手段はないかとあれこれとかんがえること。)

▽捕らぬ狸の皮算用(まだ狸をつかまえないうちから皮をうってもうける計算をするということで、あてにならないことをあてにすることをあらわしたことわざ)